

# 令和元年度 学校自己評価

中津市立沖代学校

## 1 学校の教育目標

楽しい学校 やり抜く子ども

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

## 2 重点目標・達成指標、重点的取組等

目指す資質	重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価	成果と課題、及び次学期（次年度）に向けての取組	
多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力	自ら学び合う子どもの育成	○国語・算数の単元テストで平均点が83点を超える ○児童アンケートで「授業がわかる」児童90%以上 ○授業アンケートで「友だちの考えを生かして学習している」児童90%以上 ○全国学力状況調査で合計点が県及び国の平均以上となる（国語、算数） ○各種学力定着状況調査で全学年基礎・活用とも目標値を5ポイント上回る。	学校	・考えを広げ深める他者との協働的な活動の充実	・授業の中に児童が学年段階に応じて他者と協働し学び合う場（ペア・グループ活動、発表、学級全体協議）を1日1回は設定する	A	◎成果と課題 児童アンケート ⑩「授業がわかる」児童93% ⑪「友だちの考えを生かして学習している」児童91% ・ペア、グループの話し合いを1日1回は設定した。 ・書く活動は、単元に1回以上取り組めた（国） ・6年生は社会でも新聞づくり等、書く活動を取り入れた。 ・道徳のワークシートや算数の自分の考えを書く活動を取り入れた。  ◎2学期に向けての取組 ・教師が選択肢を示して選ばせる。 ・ワークシートに教師が書いていることを写すところから始める。 ・ヒントコーナーを設置することで、課題に対しての考えを持って、書く手立てとしていく。 ・5分間程度は自分の考えを書く時間をつくる。書く視点を明確に示す。 ・学年ごとの発達段階に応じた書く視点を定め、考えを持たせ書かせる時のめあてとする。
			学校	・書くことで思考力を育成する授業の実施	・自分の考えを書く場や振り返りで自分の考えの変容や学び方等について書く場を、単元に1回以上設定する。	B	
			家庭	・書くことで思考力を育成する授業の実施	学習の手引きに沿った主体的な家庭学習の習慣の定着（低30分、中45分 高60分）を図る。	B	
			地域	学習サポーターやボランティア活動の充実	どの学年にも読み聞かせや学習サポーターとして学期に1回以上参加する。	A	
	仲間とともにやり抜く児童の育成	○児童アンケートで「学校のきまりを守っている」児童が90%以上 ○児童アンケートで「相手のよいところを見つけて伝えている」児童75%以上 ○「みんなで力を合わせて目標に向かって頑張っている」児童90%以上	学校	学校のきまりを守って生活していく態度とあいさつなど他者を大切にする習慣を身につけさせる。	学級や学年、全校集会において沖代小学校のきまりや「あすなろそうち」の指導を行う。また、毎月学年で定着の進捗状況を確認したり定着をはかるために目標の掲示方法を工夫するなどし、取り組みについて学年で見直したりする。	A	◎成果と課題 児童アンケート ⑨「学校のきまりを守っている」児童93% ⑫「相手のよいところを見つけて伝えている」児童69% ⑩「みんなで力を合わせて目標に向かって頑張っている」児童94% ・「あすなろそうち」が、児童の中で定着しており、めあてにすることで意識するようになってきている。 ・共通理解を図ることで、学年全体が正しい行動をしようとする雰囲気になってきた。 ・年度当初、理想の学年像を児童と教師が共通理解したことで、児童同士で注意し合ったり、ほめ合ったりする姿が見られた。普段からきまりを守ることが大切だという意識を学年全体で共有できている。  ◎2学期に向けての取組 各行事の目的を話し合い、振り返りを行い、成果と課題を確かめ合い成就感を味わわせる。
			学校	目的を共有して協働する行事指導の工夫	各行事の目的を話し合い、振り返りを行い、成果と課題を確かめ合い成就感を味わわせる。	B	
			家庭	多様性を尊重し、お互いの良さを認め合い自己や他者を尊重しようとする態度の育成	・インターネットの使用についてのルールをつくり定期的に児童と改善について話し合う。 ・日常での言葉使いについて家庭で話し合いよりより言葉使いを習慣化させる。	B	
			地域	「あいさつプラスワン」の取り組みを進める（見守り隊の結成）	登下校の際に子どもたちに「おはよう」「おかえり」などの声かけを実施する。	B	
	信頼し高め合う力	○「沖代小学校は働きやすい職場である」と肯定的に答える教職員の割合が80%以上 ○児童アンケートで「困ったとき、先生がよく話をきいてくれる。」と思っている児童90%	学校	・チームで育てる学年運営	・毎週の学年部会で、学年の行事や授業について共通理解し、トラブルへの対応についても学年部の枠を超えて共同歩調で対応する。	A	◎成果と課題 教職員アンケート ⑭「沖代小学校は働きやすい職場である。」教職員88% 児童アンケート ⑪「困ったとき、先生がよく話をきいてくれる。」と思っている児童97% ・行事や授業の目当て設定を学年で共有し、児童たちは振り返りで達成感などを綴っている。 ・不登校児童の保護者と学年部教員で面接し、具体的な対応を提案し、協力を約束できた。 ・年休や出張が重なった時に学年部で授業を対応するなど、代教体制をとれた。  ◎2学期に向けての取組 ・他学年についても情報共有することで、児童理解に結びつける。 ・A週の委員会がある金曜日をノー残業デーと位置づけ、職員室前方の行事ホワイトボードと職員室広報の大型ディスプレイに週の初めに工夫して掲示をする。 ・18時には退庁出来るように声かけをする。
			学校	・児童や教職員の情報共有及び発信	・児童の情報共有を情報交換会（隔週）や会議の中で行い、共同歩調の対応ができるようにする。	A	
			学校	・働き方改革	・隔週の金曜日をノー残業デーとし、互いの声かけとともに、目印等、視覚的にもアピールして定時退庁日にする。 ・月1回、中津市が定める水曜日は定時退庁する。	B	
			家庭	・働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	学力向上会議、学校便り等で学校の働き方改革について理解し、G Tやサポーターとして学校支援を行う。	B	
地域			B				